

「日本女性会議2025 檜原」第10回実行委員会報告

全文要約（公開用）

- 1 開催日時** 令和8年2月16日（月） 午前10時～12時00分
- 2 場所** 大和信用金庫八木支店3階第1会議室
- 3 出席委員** 25名
- 4 欠席委員** 1名
- 5 事務局** 8名（檜原市企画戦略部、人権政策課）
- 6 議事**

- (1)承認第1号 2025年度事業報告見込 について
- (2)承認第2号 2025年度 決算報告（見込） について
- (3)承認第3号 残余財産の処分について
- (4)報告第1号 大会報告書の制作について
- (5)報告第2号 日本女性会議実行委員会の解散について

7 議事の経過の概要及び議決の結果

*6 議事

- (1)承認第1号 2025年度事業報告見込 について

【結果】：承認

【事務局報告】

今年度は4月以降、大会開催までに月に2、3回のペースで会議や各部会を開き、準備を整えてまいりました。その過程で、5月には県内の学生を対象とした「1dayジェンカレ」を開催し、若者がジェンダー課題を自分事として捉える機会を設けました。そして10月には、「日本女性会議2025 檜原」を3日間にわたり開催いたしました。奈良県初開催となった本大会では「日本国はじまりの地から未来へ～多様性を認め合う社会の実現を～」をテーマに掲げ、初日の分科会及び交流会、2日目の全体会、そして最終日の「かしはら未来会議」を通して、全国から延べ約2,000人の皆様をお迎えすることができました。本日の第10回実行委員会に至るまで、各部会で審議を重ねてきた成果、大会当日のアンケート等を資料にまとめております。

【意見】：なし

(2)承認第2号 2025年度 決算報告（見込） について

【結果】：承認

【事務局報告】

まず収入について、橿原市の補助金や奈良県からの負担金のほか、協賛金や寄附金が目標を大きく上回る約1,950万円に達し、合計で3,685万2,717円となりました。支出については、講師変更に伴う報償費の増加や、お茶の追加購入による食糧費の超過がありました。一方で、打ち合わせのリモート化促進による旅費の削減や、物品作成費用の見直しといった経費節減に努めた結果、支出合計は3,028万5,549円となる見込みです。これにより、現時点で6,567,168円の剰余金が生じております。なお、この数値は本日時点での見込み額であり、全ての出納事務が終了した後に監事に対し最終的な会計報告を行う予定となっております。その後、委員の皆様にもご報告いたします。3年間の収支決算表も「参考資料」としてお示ししております。

【意見】

（委員）

事前に決算見込みを確認していますが、本来、決算は確定後に諮るべきものです。今日で実行委員会が解散してしまうと報告先がなくなってしまうため、規約第10条の書面決議を活用するなどして、解散前に確定した決算を報告すべきではないでしょうか。

（事務局）

会計の締めは3月中旬を予定しており、その後監事に会計報告をした上で皆様にお示しする考えでした。

（委員）

はっきり書面決議すると決めるべきです。

（事務局）

承知いたしました。規約第16条に基づき、実行委員会は3月末日に解散となりますが、それまでに確定した決算報告を書面決議にて行います。

（委員長）

書面決議は監事のみが行うのでしょうか？

（委員）

補足説明です。10条の規約は緊急時等の実行委員会の書面決議についての定めです。16条の規約に基づき、本実行委員会は3月末日での解散になります。本日中では決算が確定

しないので、監事への会計報告後、書面にて委員の皆様へ報告し3月末日に解散する形になります。

(委員長)

よくわかりました。

(3)承認第3号 残余財産の処分について

【結果】：承認

(事務局)

日本女性会議2025 檀原実行委員会の規約の第17条に(残余財産の帰属)とございまして、「実行委員会が解散したときに生ずる残余財産の処分方法については、実行委員会で審議の上、決定する。」と定められておりますのでご審議をお願いします。

(委員長)

事務局で処分方法について、何か案はありますか？

(事務局)

はい、事務局案を追加資料と共にご説明させていただいてよろしいでしょうか？

(委員長)

事務局案をお願いします。

【事務局提案】

約656万円の剰余金の内訳として、①～③を計上しております。

①市補助金(7月追加配当予算400万円)に対する返還金：93万2,000円

当該追加予算のうち引き下げとなった市民追加枠および学生枠の定員不足分になります。

②協賛金・寄附金の超過額に対する指定寄附金：469万8,000円

目標を上回った協賛金・寄附金の超過額を指定寄附金とし、檀原市における日本女性会議のレガシー事業(※1,※2)に充当する令和8年度予算の財源としたいと考えております。

③市補助金(当初予算1,000万円)に対する返還金)93万7,168円

剰余金の総額から①、②を差し引いた金額を当初予算に対する返還金とします。

※1 レガシー事業 予算：約500万円 担当：ジェンダー共生推進室(新設)

日本女性会議2025 檀原の提言を形にするべく、県や檀原商工会議所と連携し、女性の就業率向上や職場改善に向けたワークショップや研修等の開催事業

※2 かしはら未来会議 予算：約90万円 担当：企画政策課

中高生による「Well-being なまちづくり」の視点を持った「檀原市のより良い未来の姿」についてのプレゼンテーションと、その実現に向けた多様な主体の連携事業

【意見】

(委員)

処分案について、最終決算で細かい金額が変わる可能性があります、その場合①～③のどこで調整するのでしょうか。

(事務局)

③で調整する形となります。

(委員)

監事です。事前に残余財産の処分につきまして一部聞いていましたが、②の「協賛金・寄附金の超過額に対する指定寄附金」について、その額を市の方に指定寄附することになってます。ここには469万8,000円になってまして、令和8年度の当初予算に委託料約500万円。これはさっき言っておられたワークショップをするとか、これからのレガシー事業に充てるということなんです。

元々そのレガシー事業っていうのは単年度、令和8年度だけするのではなくて、少なくともやはり将来これから5年間ぐらい続けてほしいという思いがあります。これを見ると、469万8,000円残って500万円の方を取ったら、この令和8年度の単年度だけで終わってしまうのではないかという風に言えるんです。だからその次の年からもお金ないからやめるわという風になったり、担保が取れるものがないので。まあ、元々私は基金を作ってそこからちょっとずつ出して市の一般財源と足して事業をやったらいいと言ってたんですけど、基金をするのはなかなか難しいっていう話だったんです。

ここにはそういう指定を書いてますが、やはりそういう担保を取るような言葉を入れたい。例えば将来的に令和8年度から何年間は絶対に続けたいとかですね。そういうことをしなければ、予算はまた令和8年度に使ってしまったからもう知らない、という風にしか見えません。先ほどワークショップの話をしましたけど、奈良県は当然女性の就業率の問題があるので、各市町村にこの橿原でやることを全部の市町村に広げていかないといけないと県は思ってるんですよね。その兼ね合いもあって、市としては長期的視点が必要なのですが、それがどうしてもこの中では分からないので、分かるように担保を取れるような文言にさせていただいたらいいなと思ってます。それについて回答をいただきたいです。以上です。

(事務局)

監事さんにお話しさせていただいた時に、基金の話は出ておりました。基金というのは橿原市の諸事情もございまして、毎年積み立てていくような基金であれば、お話もさ

せていただきやすかったかとは思いますが、今現在、469万8,000円を取り崩していくというような形にはなりますが、財政当局とも話をさせていただきました。その中で令和7年度中に指定寄附として実行委員会の方から市の寄附をしていただくと、令和7年度の決算書の方には数字として出てまいります。ただ、令和8年度の事業としてはレガシー事業として委託料の約500万円、また未来会議の約90万円が載ってはおりますが、単年度で収入支出が出るかというところとそういう風にはちょっとできない形にはなってまいります。

ただ、この日本女性会議を機に今後レガシー事業として、男女共同参画社会の実現に向けて檀原市として取り組んでいくべき事業としては、単年度予算をつけてすぐ結果が出るというのではなくて、中長期的に5年また10年後を見据えて働きかけもしていないといけないと強く思っております。そんな中で組織の改正もさせていただいて、「ジェンダー共生推進室」を男女共同参画係から格上げし、室として立ち上げて、その中で事業を計画的に進めていくというところで、ご理解いただけないかなと思っております。以上でございます。いかがでしょうか。

(委員)

理解できません。確かに「ジェンダー共生推進室」を作るのはいいのですが、やはり私は5年、10年という中長期的な展望ならばそれを担保できるような文言を運営に入れる等していただけたらいいのかなと思います。檀原市は財政が厳しいことで庁舎も建てられず断念したみたいな話もあり、「じゃあこれ(レガシー事業)もしないよ」というようなお金に関しての危惧が私にはすごくあります。だからそれをなんとかしてほしいという思いがあります。以上です。

(委員)

少し補足説明をさせていただきます。今言っていたのは、この469万8,000円の指定寄附金のお金の使い方と、事業の継続的な話とを分けて考えていただければと思います。まずこの指定寄附金の469万8,000円というのは確かに令和8年度の1年間で使い切ってしまうようなお金に見えております。地方公共団体はいつも毎年3月、檀原市でしたら3月の議会で翌年度の予算をつけていただくという、単年度の繰り返しで事業を継続していますので、なかなか5年先もこの男女共同参画のレガシー事業の継続性を担保するというところは難しいところです。

ただ、そこを補完するために、事務局からも説明があったように、人権政策課の中にある男女共同参画係を「ジェンダー共生推進室」として組織上で格上げしたということで、市としてもこのレガシー事業を継続していくということを議会にも認めていただき、

組織に関する変更もしてきました。ですので、予算的に数年後の担保は取れるのかと言われるのはなかなか難しいところではありますが、組織的に市としてこのレガシー事業を引き継いでいく。そこには奈良県さんとタイアップをし、商工会議所さんとも連携をさせていただきながらずっと継続していきたいということです。すいません、ちょっとお答えになってるかわからないですけども、回答させていただきます。

(委員)

ご回答ありがとうございます。その格上げされた組織の概要の中に「事業を継承する」とか、そういうことは新しく文言として入るということですか？

(委員)

事業名に「レガシー」ということでは事務分掌的には入ってきません。「男女共同参画の推進」等、事務分掌的にはそういう文言になります。「レガシーの継承について」という表現はされてないと思います。

(委員)

そうしますと、先ほどおっしゃったように、明確に「室に格上げになったのでそこで継続的にやります」ということが、外からは確認できないということになるわけですね。もう1つは、この指定寄附というのは単年度にやっってしまうといけないものなのか。計画を継続させるための1つの方法として、8年度、9年度の2つに分けてやることで、「市として継続する」ことが意思表示できるものかどうか。その辺りは規約がどうなってるか分からないですが、そういうことが可能なのかも聞きたいです。

(委員)

事務分掌の中に個別の事業名を入れるというのは少し難しいのかなと感じておりますが、男女共同参画のあり方や、誰もが多様性を認め合って誰もが働きやすい環境を作る等、事務分掌的には少し整理をしたいと考えております。

次に、「2年にわたって指定寄附ができないのか」というご質問かと思いますが、事務局がおそらくこの年度末をもって解散するため、今年度でしか指定寄附はできないと考えております。来年もこの委員会が組織され続けるのならば、また来年度寄附ということで分割することも可能かと思いますが、委員会の存続上、今年度に指定寄附をする形になると思います。行政の予算との兼ね合いが難しいです。

(委員)

もしかしたら議会の時に、なぜ室に格上げすることになったかというその冒頭説明で口頭だけでも、「2025年に開催した日本女性会議を受けて、このような形で格上げ

になりました」等と言うことはできないでしょうか。

(委員)

実は12月議会で組織の条例上程を市議会に対して行い、その時には「日本女性会議2025 檀原のレガシー事業を受け継ぎ発展させるために、ジェンダー共生推進室を立ち上げます」というご説明をさせていただいているところです。

(委員)

ということは議事録に残っているということですね。

(委員)

はい。残っていると思います。

(委員長)

私も行政の仕組みに詳しくはないですが、事業と言った場合、予算は単年度ですよ。だから、例えばこれが今年指定（寄附）されると、来年度令和8年に使ってしまわないといけないと、現実的にはそういうことになるのではないのでしょうか？

(委員)

はい。

(委員長)

そういうことですよ。私も仕組みとしてはよくわかります。しかし多分、皆さんの意見を聞かないとわからないですが、やはりレガシー事業というのは、本当は単年度、来年度だけで終わるのではなく、これだけ日本女性会議、私たちが3年かかってやってきたわけですよ。それで、一つのそういう働く女性の問題を、奈良県あるいは檀原市でもっと前を向いてやっていかなければならないというところまで来ていたと思うんです。本当は単年度ごとに予算をつけながらそれをやっていくこと自体がレガシー事業だと思います。これに関しては、成約してしまったらその単年度で使い切るということになるので、その辺りが私も少し不安です。ですが、500万円を使うとなると結構大きな事業になります。一つの課でなかなか500万円もの予算を使うことは少ないですから。そこが従来の予算に対してプラス500万円になるのか、今までの予算を含めてとなるのかわからないですが、その辺は私たちが関与していないところなので、どういう風になれば事業として引き継いでいくようになるのかについては、何かいい案とかありますか。

(委員)

全然答えになっていないかもしれませんが、例えば檀原市が来年度レガシー事業で何かする時に、3年間ぐらいで絵を描いてこれをするという、例えばレガシー事業とし

でホップ・ステップ・ジャンプがあつて「8年度はホップをやります」という打ち出し方をすればいいのではないのでしょうか。もちろん行政ですので予算の確約はできませんが、市としてどういう絵姿を描いて8年度に何をしたいということが伝わるのかなと思ひました。

檀原市が言うこともすごくよくわかります。来年は県としても檀原市のレガシー事業と連携して、同じようなことをしていきたいと思ひています。県は昨年度と今年度、企業のトップや市町村長向けに、ジェンダーギャップの解消等の意識啓発のセミナーをやってきました。それによつて誰もが働きやすい職場環境を作つていっていただきたいという意識啓発をしてきまして、来年度はその次のステップとして、個々の企業で取り組むだけでなく地域でそういった機運を作つて取り組んでいただくことを進めたいと思ひています。檀原市がちょうどレガシー事業で同様のことをしたいという話を聞いていたので、「一緒にコラボレーションでやりませんか」という相談を今しております。県としては檀原市がまずモデル的にそういった市町村での具体的な取り組みをしていただくことを一緒にしていきます。そこから「うちでもやってみよう」と思ひていただけるような市町村を増やしていくというのが県の目標なので、今の時点では檀原市と県がやろうとしてることはかなり同じなんです。檀原市は市として最終的にどうしていくのかをもう少し先まで発信するという形にすることで、少し担保というか、考へているところを発信できるのかなと思ひました。以上です。

(委員)

県内の行政、市長村長の会議がありますので、市とタイアップして当然やっていかなければいけないと思ひています。その中で中長期的に商工会議所も考へておりますので、やはり県も言ひましたホップ・ステップ・ジャンプじゃないですけども、そういう意味では中長期的に考へるといふ文言とかを、この金額の中の後ろにでも入れて、意思を出すというぐらひにしていいただければとありがたいです。以上です。

(委員長)

ジェンダー共生推進室というものを立ち上げることで、今までとは違ふステージを目指すといふことは伝わると思ひます。日本女性会議のこれまで3年、皆様にはすごい時間とエネルギーとお金を費やしてきていただいたわけなので、有効な形でそれが引き継げるようにしていいただきたいです。今後解散までに、関係者の皆様と共にどのような形にするのかまたご検討いただければと思ひます。

(委員)

この推進室が作られること自体が一つのレガシーです。拡大する組織の中で、毎年し

っかり予算要求をして、続けていただくことを期待します。

(事務局)

頂いたご意見も基に目録等にきちんと文字として残し、金額の方を市に提示させていただきたいと思いますので、検討させていただき、今後お示しさせていただきます。

(委員)

協賛金については、協賛金をいただいた企業に決算報告などするのでしょうか。

(事務局)

現在作成中の大会報告書とともに、協賛企業などに報告予定です。

(委員長)

では、これで本事案についての審議を終了いたします。

【事務局追加説明】

資料2の決算報告について、先ほどご審議いただいた事務局案をもとに、最終案と差し替えいたします。こちらについては先ほどの説明のとおり、今後未処理の出納事務が終了したのちに預金口座を解約し、監事あて会計報告、その後委員の皆様にも書面決議をさせていただきます。

(委員長)

今の審議を受けて、資料2の最終案のとおり、支出の方で寄附金、補助金返還金という形でまとめさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(委員長)

事務局には支出を頑張って抑えてもらいました。協賛、寄附においては各位のご協力のもと成り立っておりますので、ぜひ協賛企業等にお示ししてほしいと思います。

(4)報告第1号 大会報告書の制作について

【事務局報告】

報告に併せて、現在校了予定の報告書サンプルを参考としてこの場で回覧いたします。

報告書の制作にあたっては昨年12月に入札を行い、3社による見積合わせの結果、株式会社奈良新聞社が65万1,860円で落札いたしました。現在は今月末の納期に向けて最終的な制作を進めているところです。報告書の仕様は、これまでのパンフレットや大会プログラムのデザインを踏襲したA4サイズのフルカラー構成となっております。内容は約120ページにわたり、本大会の全容を網羅した集大成として500冊を発行する予定です。3月中には委員の皆様のお手元に届けられるよう準備を進めております。現在会場内で回

覧しております制作途中の見本をご覧ください、内容をご確認いただければ幸いです。以上をもちまして、大会報告書の制作に関するご報告とさせていただきます。

【意見】

(委員長)

非常に充実した、立派な報告書になっています。参加できなかった方でも、これを読めば大会の内容が十分に分かっていただけるはずです。

(委員)

HP、SNSは大会終了後どうなりますか？

(事務局)

3月末で実行委員会のサイトは解散となりますが、市のホームページにて報告書を掲載し、引き継いでいきます。

(委員長)

配布資料にあった、アンケートについて事務局から説明をお願いします。

(事務局)

お手元の資料に基づき、アンケート結果をご報告します。1日目の分科会、2日目の全体会では全体的に非常によかったという声が多く、「女性活躍を改めて考えることができた」等の前向きな意見を多くいただきました。ですが、総括としては「会場でスライドが見えづらかった」「のぼり旗が傷んでしまっていた」といったご指摘も頂戴しております。さらに3日目、中高生による「かしはら未来会議」については、市の未来につながると元気をいただけた、という声や、市への提案内容実現を求める声を多くいただきました。そして実行委員の皆様からは、スタッフの対応に高評価をいただく一方で、会場が分かれたことによる把握しづらさ等の課題も伺っています。これらの貴重なご意見は、今後の市の大規模事業の運営への参考にさせていただきます。誠にありがとうございました。

(5)報告第2号 日本女性会議実行委員会の解散について

【事務局報告】

実行委員会規則第16条にて、実行委員会は大会終了日の属する年度の末日をもって解散するとありますので、2026年3月31日を以って解散いたします。

【意見】

なし

8 その他・閉会挨拶

(委員)

2月24日に奈良県で開催する「わくわく work フェスティバル」のチラシを配布しました。奈良市のコンベンションセンターで行う予定ですので、興味のある方はぜひお越しください。

(事務局)

2月27日に実行委員会の慰労会を開催予定です。ぜひご参加をお願いします。

(委員長)

ご参加できない方は、最後になるかもしれませんので、ぜひお一言ずつお願いします。

(委員)

最初どうなることかとすごく自分自身思っておりましたが、皆さんと、色んな議論をしたり、取り組みだったりを一生懸命考えることですごく有意義な、素晴らしい経験をさせていただいたと思っております。これを機会に、またどこかで繋がることを考えられたら、素晴らしいかなと思いました。本当にお世話になりありがとうございました。

(委員)

長年の30年近くの子育て支援の活動をここで活かせるんだと思って、本当に委員として入れてもらった時に「なんとかできるわ」と思った自分を戒めたくなるぐらい、この3年間は結構大変でした。やはり大きな大会なんだなとつくづく感じます。そんな中でたくさんの皆様とお会いして、本当に勉強させてもらったことがたくさんあり、とても有意義だったと思います。去年のことなのにもう夢のような感覚です。無事に終わったことがすごく嬉しいです。どうぞ今後とも皆様とお付き合いいただければと思います。ありがとうございます。

(委員)

令和5年の準備段階から参加させていただき、普段仕事であまり関わることのない方もこうやって10回にわたり、また総務部会でも何度か議論させてもらうと本当に勉強になることがいっぱいでした。私自身、当初始まってから色々議論する中で、「こういうのは途中で色々あって当たり前」と、副実行委員長がおっしゃられたことが印象に残っています。本当に終わってみると、私の間近でも「すごい良かった」という声をお聞きして嬉しくなりました。また今後も室になり、私も社会福祉協議会から事務局の方と一緒に仕事することもあると思うので、またご縁があれば(当時の)話を私が「こういうことがあって、作り上げたんだよ」と伝えていけるかなと思います。本当に、令和5年度からこの最終年度まで勉強させていただきました。このご縁をまた生かしていただきたいと思います。本当に皆さんありがとうございました。

(委員)

本当にお世話になりましたありがとうございます。私が一番感動したのはプレ大会の時、色んな女性団体の方々がパネルを出してくださり、「こんなに皆さん活動されてるんだ」という実態を具体的に知れたことです。

それからやはりプレ大会のシンポジウムの時に女性の経営者の方々が、会社を経営される中での実態をよくお話しくださったことが「すごく心強い」と思いました。うちの学生もできれば分科会に出て、と授業で紹介したりして、何人かは多分出てくれたと思います。最初はどうなることかと思いましたが、そのあと一気に進んだような気がします。本当に皆さんお付き合いいただきありがとうございました。今後どうぞよろしく願いいたします。

(委員)

前任者から引き継ぎ、協賛金がどうなるか不安でしたが、どうにかなってよかったです。

(委員)

協賛金が、実行委員の皆さまのおかげで集められたことが一番良かったと思っております。今後どうぞよろしく願いいたします。

(委員)

橿原市及び奈良県がより発展できますよう祈念いたします。どうぞよろしく願いいたします。

(委員)

厳しいことも言いましたが、準備委員会の時から参加して4年になります。振り返れば市の事務局は長い間固定された、ずっと一緒の人であることが一番良いと思いますが、途中で職員が異動するなど、やはり色々大変だったと思います。この事業が成功したのは、今年度から着任されたにも関わらず頑張っていたいただいた部長、副部長の頑張りの結果だと思えます。協賛金もなかなか集まらない中、商工会議所としても協力させていただき、目標額を越えて良かったと思います。繰り返しになります。レガシー事業についても、5年、10年と継続していくために、市議会でも検証し、きっちりとやっていただきたいと思えます。

(委員)

仕事でなかなか参加できずご迷惑をおかけしました。今後ともよろしく願いいたします。

(委員)

行政は広報部門が弱いものですから、広報部会長として当初は不安もありましたが、部会員の皆様と楽しく進めることができました。アンミカさんへの依頼も、2年前から調整し、うまくいったのでほっとしています。

(オブザーバー)

提案するのは簡単ですが、それを3年かけて実現された皆様のご尽力に心から感謝いたします。

(委員長)

まさか奈良で日本女性会議を開催するとは思ってもみませんでした。オブザーバーが随分と早くからご提案いただいていたこと等、そういった下準備があっただけでできたことだと思います。4年前に準備委員会から始まり、奈良で初めての大会を無事に終えられました。自分らしく生きられる社会を目指し、皆様のご意見の中で作り上げた大会です。奈良県、また橿原市が新しいあゆみを進めていくことを感じていただけたかと思います。特に、献身的に動いてくれた市職員の姿には感動しました。全庁的な協力があったからこそ成功です。本当にありがとうございました。

(事務局)

設立当初から支えた職員を中心に、急な異動で大きなプレッシャーを背負ったメンバーたちも皆、本当によく頑張りました。皆様に支えられ、壁を乗り越えることができました。このご縁を大切に、ジェンダー共生推進室でレガシーを引き継いでまいります。

(事務局一同)

本当にありがとうございました。

(委員長)

これで第10回実行委員会を終了します。皆様、拍手で終了しましょう。

(一同拍手)